

被表彰者の略歴及び主な功績

後藤 弥（ごとう わたる）

略 歴	伯耆町教育委員会教育長 （平成23年4月から令和2年3月）
主 な 功 績	<p>○学校教育に関する功績</p> <p>鳥取県教育委員会事務局スポーツ健康教育課長を退職の後、伯耆町教育委員会教育長として勤めた間は、温厚な性格の中にもこと職務に関しては、学校現場、教育行政現場での経験を基に、幅広い見識で、様々な先進的な取組を進めた。</p> <p>地域とともにある学校づくりを推進していくため、平成23年度に、岸本小学校、八郷小学校に学校運営協議会を設置し、平成30年度には町内全小中学校に学校運営協議会を設置し、地域人材の参画による学校運営の基盤づくりを積極的に進めた。平成24年には、地域コーディネーター、地域ボランティア活動の実績が評価され、伯耆町学校支援地域本部が文部科学大臣表彰を、平成30年度には、「地域学校協働活動」が評価され、岸本小学校が文部科学大臣表彰を、それぞれ受けた。</p> <p>保小中一貫教育の推進について、平成23年度から3年間、鳥取県教育委員会の未来を拓くスクラム教育推進事業を受託し、小中一貫コーディネーターを配置するなど、保小中での系統的な指導体制の構築を図った。平成29年度には、保小中一貫教育カリキュラムを完成させ、町内で系統性を重視したカリキュラムによる保小中一貫教育の基盤整備を行った。平成30年度には、その取組の成果が評価され、岸本中学校が文部科学大臣表彰を受けた。</p> <p>また、近年、児童生徒を取り巻く課題の複雑化、多様化に対する対策として、平成24年度には、伯耆町教育支援センターを設置し、学校、福祉関係機関、SSWなどと連携した児童生徒の支援体制の整備を行った。さらに、平成25年度からは、一学級30人以下学級とする町独自の基準を制定し、少人数学級や複式学級の解消による、個に応じたきめ細やかな指導体制づくりに貢献した。</p> <p>学校環境整備では、平成23年度から学校耐震化工事に着手し、平成28年度には全小中学校の耐震化工事及びエアコン設置を完了し、児童生徒、教職員が安心・安全に学べる教育環境づくりに尽力した。</p> <p>外国語教育については、令和2年度からの小学校新学習指導要領全面実施に先駆け、平成30年度から小学校を担当するALTを配置し、外国語教育の先行実施を進めるとともに、令和元年度からは英検受検補助制度を制定し、児童生徒の外国語学習への意欲換気を図り、外国語教育の推進に寄与した。</p> <p>○社会教育に関する功績</p> <p>生涯学習、生涯スポーツの重要性を認識し、平成26年度に伯耆町スポーツ振興計画を策定し、地域総合型スポーツクラブの設立にも寄与し、地域住民の生涯スポーツを支える環境づくりに努めた。</p> <p>平成27年度から社会体育施設の長寿化工事に着手、平成29年度に事業完了し、施設の安全性、利便性を高め、地域住民が安心して利用できる環境づくりに貢献した。</p> <p>また、文化振興においては、町立植田正治写真美術館を活用したフォトスクールの開催により、写真文化のすそ野を広げることに寄与した。</p> <p>○教育行政における功績</p> <p>伯耆町教育委員会教育長として、9年間の実績があり、町の教育行政全般の責任者として高く評価されている。また、平成29年度からは、鳥取県町村教育長会副会長、鳥取県西部地区町村教育長会会長として、そのとりまとめを担った。</p>

小林 克美（こばやし かつみ）

略
歴

琴浦町教育委員会教育長（平成24年10月から令和元年10月）

主
な
功
績

○学校教育に関する功績

温厚誠実にして明朗闊達、深い教育愛と高い教育理念を持ち、優れた識見と卓越した指導力を持って学校教育の推進にあたり、教育実践と教育行政に鋭意専心した。また、学校現場に積極的に関わり、教育環境改善に取り組み、教育行政の中で、進取の精神をもって改革を行った。その教育に対する真摯な思い、温厚な性格は町民はもとより、教育委員会事務局職員、学校教職員からも慕われ、信頼を得ている。

時代が変遷する中、教育長として多くの教育課題の解決に努めた。その一つとして、小学校の統合があげられる。保護者や地域住民の声を聴き、更なる教育の充実を図るために尽力した。また、ICT教育に積極的に取り組み、県内でいち早くタブレットパソコンやプロジェクタ型電子黒板の導入を行った。さらに、支援が必要な児童生徒の就学指導を充実させるために、特に配慮の必要な児童生徒について、学校全体で取り組む支援体制の整備と推進を行った。

○社会教育に関する功績

社会教育に関して、学校、家庭、地域が連携して取り組むことを重視し、生涯学習の理念に基づいた、人づくりと地域作りに尽力した。地域の力を積極的に取り入れ、公民館、図書館、体育事業を含めた社会教育の取組を実施し、発達課題に応じた学習機会の提供を推進した。

特徴的な取組として、親子の関わりの中で自尊感情を育むことを目指した「ことうら10歳の愛」運動がある。また、子供たちの体験活動の場として、ものづくりを柱にした多彩な体験教室の開催やあらゆる世代が利用できるどんぐり広場の整備と活用に積極的に取り組んだ。

○文化事業の振興に関する功績

琴浦町に守り伝えられた文化・文化財を次世代に伝えるべく、適切な保存とともに地域の魅力発信や活性化に繋げる取組に力を入れた。具体的には八橋郡正倉跡とされる大高野官衙遺跡の国史跡指定、幕末・明治の地方社会の情勢を窺い知ることができる遺跡として赤崎台場跡を国指定鳥取藩台場跡に追加指定、「特別史跡斎尾廃寺跡・史跡大高野官衙遺跡保存活用計画」を策定し、山陰地方唯一の特別史跡、斎尾廃寺跡の追加指定の取組も推進した。また、町内にある重要文化財（建造物）河本家住宅の保存活用計画や修理事業の支援のほか、町内の少年少女による「カウベル合唱団」の団長を務めるなど文化振興を推進した。

○人権・同和教育に関する功績

部落問題をはじめとして、子ども、高齢者、障がいのある人等の人権課題が存在している中で、人権尊重のまちづくりを一層進めるため第二次琴浦町あらゆる差別をなくする総合計画策定に尽力した。計画の理念である「一人ひとりが尊重され、心豊かにつながりあうまちづくり」の実現に向け施策推進に向け取り組んだ。

また、これまで個別に活動してきた琴浦町人権・同和教育推進協議会と琴浦町同和対策推進協議会を、人権・同和教育、人権施策、同和対策に総合的に取り組む組織として統合し、新しく琴浦町人権・同和教育推進協議会を立ち上げた。住民と行政が問題解決に向け、協働し啓発活動を行っていく推進体制の構築や、組織体制の充実を図り、町の人権・同和教育を推進した。